



# 夫が倒れた

——ある闘病の記録

Houjo Youko

朋穰 陽子





4月27日（月）

19時過ぎに夫が倒れ、即時救急車にてI共立病院緊急救命センターに運ばれました。心筋梗塞でしたが、早く見つかったため、一命をとりとめました。

意識がなく眠っている夫は、人口呼吸器と点滴クダだらけで低体温療法を受けていました。

医師から今夜が峠と言われ、覚悟してくださいと言われました。今日の15時からのICUでの面会は家族2名しか受け付けてもらえなかったため、他の親戚には帰ってもらい、私と次男はICUにいます。

19時半前に病院に到着して、20時に叔父と叔母さんが駆けつけてくれ、また20時半には長男が駆けつけ、更に私の父と母が来ました。夜は長男と両親が我が家に泊まりました。

私と次男は深夜2時まで病院にいて、タクシーで帰宅しました。医師の説明と看護師さんの入院説明の話を聞き、書類も色々もらいました。叔父と叔母さんは、22時を過ぎたところで帰ってもらい、父と母と長男は0時半頃にいわきの自宅に先に帰ってもらいました。

医師より診断書2枚の治療計画書もらいました。

4月28日から4月30日まで、夫はICUに入院しており、人工呼吸器で脈やバイタルは良好でした。

手は縛られており、白い靴下をはいていて、寝間着が体にかけていました。何故か頭前（お

でこの上)がツルツルしており、髪を少し剃ったような感じでしたが、それ以外の箇所髪はありました。「体が大きい……」と夫に声をかけましたが、反応はありませんでした。

28日から30日まではICUに入院しており、当時は非常に大変だったため記録はつけていません。4月29日まで母が泊まり、翌日父に迎えに来てもらい帰りました。

## 5月1日(金)

夫の心臓が良くなってきて肺の水も少しだけになってきたため、低体温療法で平温へ戻すことになりました。48時間かけてゆっくりと体温を戻し、土曜日の朝になりました。意識回復に向けて眠る薬も減らしていく事になり、明るい見通しがついてきました。その後、頭のCTをとり脳の障害がないかの検査になります。

意識回復に向けて家族が見守り続けました。毎日の面会時間は15時までで、家族2名限り、10分間なので、私たち家族は自宅にて待機していました。母と長男が3日まで自宅に泊まりました。

体温が35.6℃まで戻り、大きな機器は取れましたが、いろんな点滴をしている為に、むくみがありました。血圧、バイタル良好……意識はありません。低体温療法で48時間、5月2日朝には平温になる予定の治療でした。(5月1日15時25分の面会にて)

2軒隣の方に組内の仕事やゴミ片付け等を手伝っていただき、とても感謝しています。

5月2日（土）

夫の命は大丈夫です。低体温療法で明日朝には平温に戻る予定です。ゆっくりと自力呼吸ができるようになると、機器が自動的に検知して完全に自力呼吸に変わるそうですが、意識回復には個人差があつていつ目覚めるかはわかりません。その後、頭のCTを撮り、脳に障害がないかどうか検査していきます。まだまだ治療は続きますが、明るい見通しがついてきました。

5月2日から、部屋がICUからCTUに変わりました。受付の看護師さんの指示でスリッパをはき、マスクをし、手の消毒をして入らなければなりません。手荷物の持ち込みは可能で、口洗いウォッシュとタオル3枚、バスタオル2枚、紙おむつLLを持つてくるように言われたので、帰宅後の翌日、ドンキーとツルハドラッグに買いに行きました。

昨日と同じ低体温療法を続け、平温に戻り、低体温機器が外されました。点滴は5本ほどで大きな注射器のような機器が6台あり、心電図と別のモニターがありました。

5月3日（日）

今日も病院へ行きました。入院から7日目にCTU部屋に移りました。昨日と同じで意識はありませんでしたが、名前を何度も呼びかけてみました。手を触つたら温かく、状態は安定しています。